校長室だより

令和７年１２月１２日（金）
第　３３　号
十日町市立中条中学校校長室

学力と経済との関わり（その１）

子どもの健やかな成長と将来の社会的自立を願うのは、保護者として当然のことです。こんな言葉をかけていませんか。**「今ちゃんと勉強しておくことが、あなたの将来のためなのよ」**

一昨年度までに紹介した、慶応義塾大学の教育経済学者、中室牧子さんが書いた「学力の経済学」という本では、この言葉は経済学的にも正しいことが明らかであるとされています。この本は「どんな学びが子どもの将来に本当に役立つのか」を示しています。

保護者会が実施された今週、また冬休みを迎えるこの時期に、中室教授の内容を踏まえて紹介したいと思います。ただし、この内容が絶対とは思いません。一例としてお読みください。

今回の保護者会でも、「うちの子は勉強しない。どうしたらいいか」と相談が多くあったと聞いています。どのご家庭でも切実な悩みであることは間違いありません。さて、保護者としてどうしたらいいかについて、以下の内容が考える材料になればと思います。

「教育への投資」

中室教授は、経済学者です。「教育は最大の投資。お金だけでなく、子どもの時間や努力も将来に大きなリターンをもたらします」と言っています。少し詳しく説明すると「教育は、子どもの未来にとって最も価値のある投資です。経済学の研究では、教育にかけた時間や費用は、将来の収入や生活の質に大きなリターンをもたらすことが示されています。高校や大学への進学はもちろん、日々の学びや読書習慣も、子どもの可能性を広げる重要な要素です。お金だけでなく、親の声かけや学習環境づくりも『投資』です。今日の小さな努力が、将来の大きな成果につながります。」とのことです。

この本は様々な調査から導き出した内容で書かれています。「投資」と言うと「お金をかけること」と思いがちですが、決してそうではありません。「日々の学び」「読書習慣」「親の声かけ」「学習環境づくり」も「投資」だと言っています。今すぐにでもできそうな「投資」を紹介してみます。参考になればと思います。

学習環境への投資

〇リビングに学習スペースを確保し、親が見守れる環境を整える
〇スマホやゲームを学習時間中は視界に入らない場所へ
　→ 集中できる環境は習慣化を促します。

時間の投資

〇毎日 10 分、親子で読書タイムを設ける
〇宿題や学習計画を一緒に確認する
　→ 親の関心が子どものやる気を高めることが実証されています。

声かけの投資

〇「今日はどこまで進める？」と選択肢を与える
〇「昨日よりここができるようになったね！」と努力を褒める
　→ 命令ではなく、過程を認める声かけが効果的。

教材や体験への投資

〇本や図鑑を購入し、興味を広げる

〇美術館や科学館など、学びにつながる体験に連れて行く
　　→知的好奇心を育てることが、長期的な学力に影響します。

非認知能力を育てる投資

〇約束を守る、片付けるなど生活習慣を重視
〇ゲームやテレビは完全禁止ではなく、時間を決めて自己管理を促す
　　→ 自制心や協調性は将来の学力・収入に強く影響します。

ここで紹介した「投資」は、少し時間や準備がかかるものもあります。これから紹介する「声かけ」の具体例はすぐにでもできそうです。

親の声かけの具体案

「勉強しなさい！」は逆効果、命令口調はやる気を下げます。代わりに、
「今日はどこまで進める？」と選択肢を与える
「昨日よりここができるようになったね！」と努力を褒める
　　→ 成果ではなく過程（努力）を褒めることが重要です。これは自己効力感を高め、継続につながると実証されています。

小さな成功体験を積ませる声かけ

「この問題だけやってみよう」「10 分だけ集中しよう」など、ハードルを下げる声かけで達成感を与えると、やる気が持続します。

ご褒美は“結果”ではなく“行動”に

「100 点を取ったら」ではなく、「本を 1 冊読んだら」「宿題を終えたら」など、インプットに対して報酬を与える方が効果的という研究結果があります。

「テストでよい点をとればご褒美」と「本を読んだらご褒美」－どちらが効果的か？

「テストでよい点をとればご褒美をあげます。」「本を 1 冊読んだらご褒美をあげます。」子どもの学力を上げる効果を持つのはどちらでしょうか。

「テストでよい点」とは「結果を褒める（：以下アウトプットとします)」ことです。一方は、「本を読む」とか「宿題を終える」とは、「学びの過程や努力を褒める（：以下インプット)」ことです。

子どものやる気を育てるためには、テストの点数や成績といった「結果」よりも、学びの過程や努力を認めることが大切です。例えば、「100 点取ったね」ではなく、「毎日コツコツ勉強していたね」「本を読む時間を作ってえらいね」と声をかけることで、子どもは「頑張れば成長できる」という気持ちを持ち、挑戦を続けられます。結果だけを褒めると、失敗を恐れて新しいことに挑戦しなくなることもあります。努力を褒める声かけが、子どもの学びを長く支える力になります。

大切なことは、子どもたちが「ご褒美」にどう反応し、行動するかだと言われています。「インプット」にご褒美が与えられた場合は、子どもにとって何をすべきかが明確です。本を読み、宿題をすればいいのです。一方、「アウトプット」にご褒美が与えられた場合、何をすべきか、具体的な方法は示されていません。ご褒美は欲しいし、やる気もある。しかし、どうすれば学力を上げられるのか、彼ら自身にも分からないのです。「勉強しろ」とか「テストで〇〇点を取るように」などに対してのご褒美は、子どもにとって、そこに向かう方法が分からないのではないでしょうか。

次号でも、この続きに触れてみたいと思います。